

「ひろしまサンドボックス」実証プロジェクト（行政提案型）の継続業務について

建設DX担当
道路整備課

1 要 旨

「広島デジフラ構想」の取組の1つである「広島型除雪支援業務」については、「ひろしまサンドボックス」実証プロジェクト（行政提案型）を活用し、実証実験を進めているところである。このたび、令和2年度の実証実験の結果を踏まえ、令和3年5月7日に開催した業務結果評価委員会において、令和3年度に継続実施する業務1件を選定した。

2 継続する業務の評価方法等

業務結果を踏まえた今後の事業継続の可否について、適正な審査及び選定を行うため、6名の委員で構成する業務結果評価委員会を設置し、次の評価方法により継続する業務を決定した。

(1) 評価方法

「業務成果報告」および「業務を継続実施する場合の企画提案」について業務受託者が行うプレゼンテーションを踏まえ、委員が採点を行う。

(2) 評価結果

課題を解決する効果の高い業務1件を「継続して実施する業務」とした。

テーマ	概要	実施業務 (件)	継続業務 (件)	継続する業務の代表者
除雪支援 技術の構築	オペレータの高齢化や若手の担い手不足に対応するため、経験の浅いオペレータでも除雪作業を行うことが可能となる除雪支援技術の構築	2	1	(株)パスコ

※詳細は別紙のとおり

3 今後の方針・予定

- ◇ 令和3年6月 業務を継続して実施する者と委託契約を締結。
- ◇ 令和3年6月 実装に向けて試行規模を拡大し、支援技術の構築を行う。
～令和4年3月
- ◇ 令和4年度 本格運用する技術を決定し、令和5年度からの本格運用に向け、除雪機械の改修と平行して除雪業者への説明などの準備を行う。

「ひろしまサンドボックス」実証プロジェクト（行政提案型）継続する業務の概要

代表者及び コンソーシアム 構成員	概 要
・(株) パスコ ・(株) 三英技研	<ul style="list-style-type: none">・道路路肩までの接近距離及び接近状況をオペレータに伝達するため、除雪車の走行状態をリアルタイムに取得しながら機能の有効性を検証・除雪機械の自己位置を高精度に測位できるよう、複数の技術を組み合わせた複合航法システムを構築し、その有効性を検証・除雪トラックのフロントプラウを自動制御して障害物への衝突を回避するため、必要な制御プログラムを作成し、実証を実施